

学力は生きる力である

～少年院での数学指導の取り組み～



語りかけるような文体で執筆した参考書がベストセラーになった高橋一雄さん。この10年、寄贈した参考書がきっかけとなり、複数の少年院で数学の指導を行ってきました。分数の計算もできなかった少年たちが短期間のうちに高校数学を解く学力を身に付け、高等学校卒業程度認定試験に合格しています。どのような授業を実施し、子どもたちがどのように変わっていくのか、お話を伺いました。

現在は、新潟県の「新潟少年学院」で、17歳から20歳の少年たちに授業を行い、その授業を受けた8割以上の少年が「高等学校卒業程度認定試験」(以下、高卒認定試験)に合格しているそうですね。

はい。現在、少年院の矯正教育は生活指導が中心で、教科指導に比重が置かれていません。ただ、5年前から入院中に施設内で高卒認定試験が受験できるようになり、そこで新潟少年学院が最初に強化指定施設となり、私に声が掛かったのです。

少年院に入院してくる子どもたちの学歴は中学卒業が大半で、数学の学力は分数計算や九九ができない子も大勢います。彼らの多くが養育環境に恵まれず、貧困や虐待など、また学校の授業にもついて行けず小学校4年頃から欠席しがちになる傾向があります。

そのような少年が生活指導中心の矯正で出院しても、学力が不足しているで生きる術が見つからず再犯の恐れがあると危惧しています。しかし高卒認定試験に合格すれば、大学や専門学校に進学することが可能になり、ハローワークに行つて就職先も選ぶことができます。社会復帰後の選択肢を広げるためにも、学力は必要だと思います。

分数計算ができない少年が、数カ月で高校数学が解けるようになるそうですが、どのような授業を行っているのですか。

いた少年たちも、徐々に学習意欲が向上してきます。ある少年から「先生、俺たち能力はあるが、学力がないだけなんだ。だから教えてくれよ!」と、真剣に言われたことが忘れられません。

少年は学力がついてくるにつれ「大学に行きたい」「将来は教師になりたい」と、夢を語るなど、短期間のうちに劇的に変わること驚かされています。

高橋さんは小中学校時代、持病のぜんそくのために出席日数の半分以上が登校できなかったそうです。

はい。ですから中学まで成績も悪く、通信簿はほぼ1でした。また太っていて体育も見学が多く、それ故、中学時代はよく馬鹿にされていました。しかし高校生とき「ぜんそくに苦しめられたから、医者になろう」と医学部を目指すことに。そこで真剣に数学の勉強を始めたが、さっぱり分からず自然と涙がこぼれて・・・そこで分数計算まで戻って、積み重ねていきました。

長い浪人生活では、自宅からほとんど外に出ない引きこもり状態にもなりました。結局、家庭の事情で医学部進学は断念し、東京学芸大学に進学しました。小中学校時代および浪人時代の苦い経験が、今、生きる上での糧になっていると感じています。

今、少年院で指導されている中で感じる「いま、子どもたちに何を教えるべきか」を教えてください。

少年院の子どもたちは教育に飢えていて、教育を欲していると感じています。私は今、立教大学大学院で「学力が少年たちの内面にどのような影響を与えるか」をテーマに研究をしています。彼らは勉強が嫌いなわけではなく、9割の少年が「分かる授業なら受けたい」と願っています。そのような子どもたちを指導すること

数学は抽象的思考が養われる学問です。少年院の少年たちは総じて抽象的概念を言葉で表現する力が欠けています。自分の思いを自分の言葉で表現できないから、行動を通して訴えてしまう。だから、考えさせ自分の言葉で表現することを重視した授業を行っています。

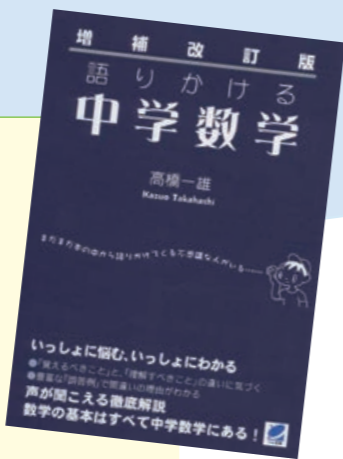
少年たちとの関わりの中で気を付けていることはありますか。

1クラス10数人ですが、全員に何度も当てるように心掛け、言葉の掛け方にも配慮しています。「分かるよね?」は禁句。「分かりません」とは答えづらいですからね。だから「大丈夫かな?」とか「しんどい?」と尋ねるようになります。そして「自信をもって間違えてください」と伝えます。「間違えてもいいんだ」という雰囲気定着すると、積極的に授業に参加するようになります。

生徒はどのように変わっていくのでしょうか。

最初は「俺は馬鹿だから、勉強しても仕方ない」と言っています。最初は「俺は馬鹿だから、勉強しても仕方ない」と言っています。少年院の矯正教育において生活指導が重要であることは確かです。ただ、将来的には生活指導と教科指導が矯正教育の両輪になることを願っています。

なぜなら「学力は生きる力である」からです。



数学が嫌いな中学生は一度読んでほしい一冊です。

Profile

著述業
たかはし かずお
高橋一雄さん

1994年東京学芸大学教育学部卒業。埼玉県内の大手予備校、塾などの講師を務めながら『語りかける中学数学』を執筆。現在は著述業が中心。主な著書に『増補改訂版 語りかける中学数学(ベレ出版)』、『もう一度高校数学(日本実業出版社)』、『かずお式数学ノート全14巻(朝日学生新聞社)』など。中高生だけでなく、学び直しをしたい社会人向けの著書も多い。この10年間は新潟県など全国の少年院で数学を指導。